

# プロジェクト紹介

コスモ石油  
エコカード基金

皆さまからの寄付金が、2011年度は15プロジェクトの支援に使われました。  
各活動のプロジェクトパートナーとともに、日本や世界各地で行った活動をご報告します。

より詳しい情報が掲載されています。  
「コスモ石油エコカード基金」のホームページを、  
ぜひご覧ください。

<http://www.cosmo-oil.co.jp/kankyo/>

ホーム > 環境活動 > コスモ石油エコカード基金

## プロジェクトを展開している地域

### プロジェクト概要

当基金は2002年4月に発行を開始した「コスモ・ザ・カード・ハウス[エコ]」と、2006年6月に発行開始した「コスモ・ザ・カード・オーパス[エコ]」の会員(以下「エコカード会員」)の皆さまからの年間500円の寄付金と、コスモ石油グループの寄付金とともに、地球環境貢献活動「ずっと地球で暮らそう。」プロジェクトを展開し、今年で11年目を迎えました。



- 【日本】
- 7 さとやま学校
  - 8 野口健 環境学校
  - 9 学校の環境教育支援
  - 10 種まき塾
  - 11 どんぐりの森 里山再生
  - 12 ビオトープ浮島 水辺の生態系回復
  - 14 ムササビとともに暮らす 里山再生
  - 15 東日本大震災復興支援 森は海の恋人

- 【中国】
- 5 内モンゴル緑化
  - 2 シルクロード緑化
  - 4 秦嶺山脈 森林・生態系回復
  - 6 【タイ】 北タイ山岳地帯 共有林地図作成



- 【オセアニア】
- 【パプアニューギニア】
  - 1-1 熱帯雨林保全
  - 1-2 南太平洋諸国生態系保全
  - 【ソロモン諸島】
  - 1-2 熱帯雨林保全
  - 【ツバル】
  - 3-2 南太平洋諸国支援

### 1-1 パプアニューギニア：熱帯雨林保全

エコカード会員×1.5人の支援  
(寄付金500円/人)で、  
1回の有機定置農業講習を  
受けることができました。

パプアニューギニアで、安定した食糧自給や現金収入のために、農業の技術指導と普及に取り組んでいます。2011年度は農業指導をした農家が作物の販売により貯金をして店を出すケースが生まれるなど、明るいニュースがたくさんありました。卒業した研修生の追跡調査では、小規模でも地道に継続している例が多くみられました。サンバム村では森の重要性が理解され、熱帯雨林保全の覚書を取り交わすことができました。



一つ一つ、  
ていねいに  
植林します



### 1-2 ソロモン：熱帯雨林保全

エコカード会員×360人の支援  
(寄付金500円/人)で、  
研修生1人が1年間、農業研修を  
受けました。

ソロモン諸島にて、過剰な焼畑農業を抑制し、安定した食糧自給や現金収入を確保するために、定置型有機農業の技術指導と普及に取り組んでいます。2011年度は、20人に1年間の研修を実施しました。専門家による肥料の分析や、精米所の設置等により、米の栽培・販売も徐々に増えてきています。



マングローブです。  
海岸は私が守る!

- 1-1 サンバム村の住民と植林
- 1-2 稲作実習で収穫した米を脱穀する
- 2 今年植えた苗もすくすく育てほしい
- 3-1 地元の小学生もマングローブの植林に参加
- 3-2 子ども向けのごみ処理教育用ボードゲーム「Go-Meeel! (ゴーミー)」を囲んで

### 2 中国：シルクロード緑化

エコカード会員×1人の支援  
(寄付金500円/人)で、  
28本のサジーの植林ができました。

シルクロードの地、中国の黄土高原では急速に沙漠化が進んでいます。そこで、経済的な価値があり現地の気候に合う沙棘(サジー)を植林するべく、育苗成基地をつくって、地元の農民に苗を供給しています。2011年度は、50年に一度の大規模な干ばつにより、昨年植えた苗の多くが枯れてしまいました。しかし、数年前に植林した沙棘の中には、順調に育って実をつけはじめたものもあり、将来への期待もみえてきました。

### 3-1 キリバス：南太平洋諸国支援

エコカード会員×1人の支援  
(寄付金500円/人)で、  
マングローブを1.3本、  
植えることができました。

南太平洋にあるキリバスは海拔が低く、海水面の上昇や波による土地の浸食が起っています。そこで、海岸の浸食を防ぐためのマングローブ植林を、地元の若者や子どもたちとともに進めています。2011年度は、10月と翌2月に、あわせて8,413本のマングローブの種子を植えました。昨年度の植林分は75%が根付くなど、安定した成果が出ています。2012年度も地元の住民たちと共同で植林をつづけます。

### 3-2 ツバル：南太平洋諸国支援

エコカード会員×24人の支援  
(寄付金500円/人)で、環境教育ツールを  
1つ作り、子どもたちが  
ごみ問題について学ぶことができました。

南太平洋のツバルでは海岸の浸食を防ぐマングローブ植林と、子どもたちへのごみ問題の啓発活動を行っています。2011年度は干ばつの被害を受けたものの、現地小学生とともに進めた1,200本の植林をはじめ、広範囲で植林を行いました。また、昨年制作した子ども向けのごみ処理教育用ボードゲームの現地語版を制作・配布しました。



### 4 中国：秦嶺(シンレイ)山脈 森林・生態系回復

エコカード会員×1人の支援  
(寄付金500円/人)で、  
12本の松の苗木を植林しました。

絶滅危惧種のキンシコウやジャイアントパンダなど、希少動物の宝庫である秦嶺山脈において、動物の移動を妨げる林道へ植林することで、森の生物多様性を取り戻すことが目標です。2011年度は14kmの道路に11,000本を植林しました。大学での環境講座や、キンシコウの生態についての研究の支援も継続しています。



### 5 中国：内モンゴル緑化

エコカード会員×1人の支援  
(寄付金500円/人)で、  
1人の小学生が環境教育を受けました。

沙漠化が進んでいる中国の内モンゴル自治区において、経済的価値の高い沙棘(サジー)の植林と、現地の小中学生に環境教育を実施しています。2011年度は、苗基地の大規模な土壌改良を行い、現地住民やツアー参加者により、20万本の沙棘挿し木ができました。植林から3年目の沙棘には実がなったものも多く、成果を実感することができました。地元住民の意欲も高まっており、さらに活動を推進していきます。

### 8 日本：野口健 環境学校

エコカード会員×217人の支援  
(寄付金500円/人)で、  
「環境メッセンジャー」1人が  
誕生しました。

自分から環境に対して働きかけ、多くの人にメッセージを発信できる「環境メッセンジャー」の育成を目的に、アルピニストの野口健さんを校長とした「環境学校」を開催しています。2011年度は佐渡島と白神山地で各1回開催し、延べ36人が参加しました。佐渡島では、トキの保護について学びました。白神山地では、3日間かけて険しい沢や山道などを通り、大いなる自然を感じました。



育て！  
環境メッセンジャー

### 7 日本：さとやま学校

エコカード会員×60人の支援  
(寄付金500円/人)で、  
小学生1人が学校田で稲作を体験し、  
環境教育を受けました。

「里山」の保全・再生と、次世代を担う人材の育成を目的に、長野県飯綱町の耕作放棄地を活用し、農業教育プログラム「さとやま学校」を実施しています。飯綱町の農家の苗を都会の学校にある田んぼで育て、農家が学校に出張して授業を行うことで、食農や環境への意識の向上をめざします。また、雑穀栽培・販売や農作業体験ツアーなども行い、農村と都市部の交流を高めています。





**9 日本：学校の環境教育支援**

**エコカード会員×975人の支援**  
(寄付金500円/人)で、  
**1校の小中学校が1年間、  
環境教育を受けました。**



自然体験プログラムなどのノウハウを持つ日本各地のNPOと学校をつなぎ、環境教育プログラムを提供します。2011年度は日本国内の10校を支援しました。実施の際は、教員との打ち合わせや、事前学習・ふりかえりをしっかりと行い、心に残る環境教育を行いました。2011年度で活動は終了となりましたが、子どもたちがこのプロジェクトで学んだことを暮らしに活かし、よりよい未来をつくってくださることを期待しています。

**12 日本：ビオトープ浮島 水辺の生態系回復**

**エコカード会員×20人の支援**  
(寄付金500円/人)で、  
**1人がビオトープ浮島作成を  
体験しました。**

2011年度は、埼玉県久喜市の権現堂調整池、埼玉県越谷市の大相模調整池、千葉県成田市の坂田ヶ池総合公園の3カ所で浮島づくりを実施しました。各地で子どもたちや大学生を含む80~250人ほどが参加し、3.5m四方くらいの大きさの浮島を2~9基制作しました。浮島は、間伐材や竹材をいかに組み、間伐材からつくった炭などをココヤシの袋に詰めてくりつけたもので、林業振興の一助になり、炭による水質浄化の機能も持っています。



**14 日本：ムササビとともに暮らす 里山再生**

**エコカード会員×103人の支援**  
(寄付金500円/人)で、  
**ムササビの観察入山調査が  
1回できました。**

富士山の北東でムササビと人が共生する森をつくるこのプロジェクト、初年度は約100回にわたる入山調査を行いました。その結果、活動のフィールドとなる神社周辺の森で行ったムササビの生態調査では、2頭が生息していることがわかり、繁殖している可能性もみられました。また、周辺の山林を多くの野生生物が通過していることもわかっています。今後は、これまで放置されてきた山林を整備しながら、山林が生きもののえさ場となるよう、広葉樹の植林などを検討していきます。

**15 日本：東日本大震災復興支援 森は海の恋人**

[2011年度ハイライト]内で報告しています。  
3ページをご覧ください。



**10 日本：種まき塾**

**エコカード会員×1人の支援**  
(寄付金500円/人)で、  
**3本の苗木を供給しました。**



「ココロと大地にタネを蒔く」をスローガンに、樹木の種や実生(種から発芽したばかりの木)を集めて成長させ、北海道内で植林する団体に苗木を提供しています。地域に元々ある樹種を植えることが、本来の植生回復につながるを考え、赤エゾマツやミズナラなどを育成しています。2011年度は8,008本の苗木を提供し、育苗・種まき体験には延べ620人が参加しました。また、里親プロジェクトに苗木育成のノウハウや技術を提供しています。

**13 日本、南太平洋諸国：南太平洋諸国生態系保全**

**エコカード会員×5人の支援**  
(寄付金500円/人)で、  
**1人にシンポジウムで生物多様性保全の  
大切さを伝えることができました。**

2011年度は、パプアニューギニアの現状把握と分析を行いました。「生態系・環境」「コミュニティ・教育・文化」「経済・農林」「知財・企業」「法制度」の5つの部会をつくり、専門的な検討を進めています。8月にはパプアニューギニアの現地調査、2012年3月には中央大学駿河台記念館にて、国際ワークショップを開催しました。特にパプアニューギニアでは、国土の97%が個人・共同体所有なので、生物多様性保護のためには土地改革が必要であることがわかりました。さらに検討を進め、有効な提案を検討していきます。



- 9 鹿兒島・田んぼで生きもの調査
- 10 広い苗畑に色々な年数の苗
- 11 園児たちがどんぐりを畑に蒔くところ
- 12 みんなで協力して浮島を組み立てていきます
- 13 国際ワークショップ
- 14 洞(うろ)の真ん中で目が光っているのが見えますか？これがムササビです



**11 日本：どんぐりの森 里山再生**

**エコカード会員×1人の支援**  
(寄付金500円/人)で、  
**0.6本の植林ができました。**

山火事跡から里山の復興を目指すプロジェクトです。まずは植樹ツアーを実施し、県外から集まった方々と地元ボランティアの方々によって、コナラやヤマボウシなどの苗木5,600本を、1.5ヘクタールの里山に植樹しました。そして、「どんぐりの森」をつくるためにどんぐりから木を育てる計画もスタートしました。保育園の園児たちが、散歩のときに拾い集めたたくさんさんのどんぐりを、1粒ずつポットや畑に蒔きました。このどんぐりから苗木を育て、2013年の春に植樹する予定です。

**プロジェクト紹介**  
<http://www.cosmo-oil.co.jp/kankyo/>  
ホーム > 環境活動 > コスモ石油エコカード基金

皆さまからの寄付金が、2011年度は15プロジェクトの支援に使われました。各活動のプロジェクトパートナーとともに、日本や世界各地で行った活動をご報告します。

**コスモ石油  
エコカード基金**

